

民放連「メディアリテラシー」チェックリスト

【民放連「メディアリテラシー」チェックリストについて】

デジタル化の進展にともなう偽・誤情報が社会問題となる中、▽メディア（放送やネット、SNSなど）の特性を理解する能力、▽偽・誤情報に向き合うための能力——としての「メディアリテラシー」の定着が必要になっていると考え、民放連は2025年度、会員の放送局が取り組むメディアリテラシー活動のさらなる促進を図ることとしています。

この取り組みの一環として、“フェイクニュースに勝った国”と言われるフィンランドで、メディアリテラシー教育に利用されているチェックシートを参考に、民放連「メディアリテラシー」チェックリストを作成しました。

チェックリストは、「小学校高学年～中学生」を想定して作成しています。また、それぞれの項目には、各放送局がニュース制作などにおいて対応している実例等を掲載して、実際にどういった取り組みをしているのか、イメージできるようにしました。

「この情報、少しおかしいな」と思った際に、情報をうのみにしたり、一方的に批判したりするのではなく、“一歩立ち止まって確認してみる”という習慣が身に付くことにつながればと考えています。

本リストは、放送局が行う「出前授業」での利用を念頭に作成していますが、小学校や中学校などにおける情報活用能力の育成（＝メディアリテラシー教育）においても、この内容が参考になれば幸いです。

1. 情報を出している人

- ✓ 情報を出している人は、そのことに詳しい人ですか。昔とちがうことを言っていないですか。これまでの発言を見てみよう。よく知らずに情報を出しているかもしれませんし、ウソをついている可能性もあります。
- ✓ 情報を出している人は、本当にいる人ですか。とくに、いろいろな人が情報を出しているウェブ・SNSでは、▽プロフィール、▽URL、▽SNSの認証バッジ、▽フォローしている人の数、▽会社の場合は住所——などを確認しよう。“なりすまし”に注意が必要です。
- ✓ 情報を出す目的を考えよう。とくに、ウェブ・SNSでは、ウソでも、みんなの注目（アクセス数）を集めれば、そのまま、お金もうけができる仕組みになっています。

【放送局での事例①】

- ・ 大きな地震が起こったときに、「その地震で家がこわれた」という動画がSNSにありました。ニュース番組で取り上げるべきか確認するため、その動画を出している人を調べると、これまでもインターネットにあった動画を自分のものとして使っていたり、よく見ると外国のアカウントになっていました。このため、今回の動画もこの人が撮ったものではないと思い、画像検索してみると、昔、別の場所で起きた土砂くずれのときのものでした。

【放送局での事例②】

- ・ 番組で専門家の先生をゲストにお呼びするときは、▽大学のウェブサイト、▽発表している研究結果、▽これまでにテレビや新聞でどんなことを言っていたか——などをチェックし、おかしなところがないかを確認しています。そのうえで、専門家の先生ご本人に電話などで話をして、正式に出演をお願いしています。

【放送局での事例③】

- ・ 災害が起きたときに、被災地にいる人のフリをしてSNSに情報を投稿し、注目を集めてお金をもうけようとする人もいます。SNSの情報をニュースで紹介するときは、情報を出している人への確認のほか、警察や消防に取材をして聞いた情報と比べて、本当だと分かったときに放送しています。

2. 情報のなかみ

- ✓ 情報は最新のものですか。年・月・日を確認しよう。
- ✓ 文章、図やグラフ、画像・動画などの中におかしなところはないですか。とくにウェブ・SNSの情報は、文字検索や画像検索をして、同じ情報が、ほかのサイトで見つけられるか確認しよう。また、国や会社などの正式な発表と比べてみたり、信頼できる大人などに意見を聞いたりしてみよう。

【放送局での事例④】

- ・ ニュース番組の天気予報コーナーで、視聴者のみなさまから、季節を感じる写真や映像（植物や生き物、空の様子など）を投稿してもらい、紹介することがあります。放送前に、投稿した人へ連絡し、「いつ」「どこで」撮ったのかを確認めます。例えば、「その花は、いつごろから咲きはじめましたか」「いつ見つけましたか」などくわしく聞き、放送するかどうかを決めます。情報が古いものや、写真を送った人と撮った人がちがう場合は放送しません。また、放送のときに投稿した人の名前や、住んでいる地域を出してよいかも確かめています。

【放送局での事例⑤】

- ・ 風が強い日、SNSに「強風で自転車が飛んだ」と、電線にひっかかった自転車の写真が投稿されていました。このことをニュースで伝えるため、投稿した人に連絡して状況を確認しました。しかし「いくら風が強くても、自転車が地面から電線まで飛び上がるかな」と疑問に思い、周囲の人や、警察に話を聞きました。すると、自転車は近くの高いマンションのベランダに置いてあったもので、そこから落ちてきたことが分かりました。

3. 情報を伝えているメディア

- ✓ 使っているメディア（放送・新聞・インターネットなど）の特性を考えよう。情報を伝える手段によって、強みと弱みがあります。

【メディアの特性】

| 伝える手段 | 強み | 弱み |
|--|---|--|
| 放送 (テレビ・ラジオ) 遅い ← ● → 速い 慎重 ← ● → 手軽 | <ul style="list-style-type: none"> ・放送局が取材をして、たくさんの方がチェックしたうえで、情報を伝えている ・情報を早く、いっせいに多くの人に届けられる | <ul style="list-style-type: none"> ・放送時間が決まっていて、伝えられる情報が限られる ・一度放送すると、取り消しが難しい ・見ている人は、情報を受けるだけになりやすい |
| 紙の新聞 遅い ← ● → 速い 慎重 ← ● → 手軽 | <ul style="list-style-type: none"> ・新聞社が取材をして、たくさんの方がチェックしたうえで、情報を伝えている ・まとまった情報を、じっくり見られる | <ul style="list-style-type: none"> ・紙の新聞の中だけなので、伝えられる情報が限られる ・読んでいる人は、情報を受けるだけになりやすい ・最新の情報がすぐに分からないことがある |
| インターネット (ウェブ・SNS) 遅い ← ● → 速い 慎重 ← ● → 手軽 | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人が情報を出せるので、とても早く情報を伝えられる ・情報を受け取ったり、伝えたりできる。(意見や感想も伝えられる) ・たくさんの情報がある | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなが発信しているので、中には、事実だけでなく、ウソや人を傷つける内容もある ・情報が多すぎて、何が本当か分かりにくい |

4. 情報の受け取り方

- ✓ 人によって考え方に違いがあったり、さまざまな意見があったりすることを理解しよう。
- ✓ 自分の思い込みで、「信じる」「信じない」を判断していないか、立ち止まって考えてみよう。
- ✓ 「みんなが言っているから」といって、本当だと考えないようにしよう。
- ✓ 受け取った情報が、ウソか本当か、判断できない場合があることを理解しよう。

以上